

市

民

の

声



額娃町 別府

佃 宏人

これからの 南九州市の農業

私は、南九州市で青果用・原料用・加工用サツマイモ及び青果用・加工用ニンジンを生産、集荷販売しております。

わが南九州市には品質の良い農産物がたくさんあり、多くの若者が農業に携わっていますが、こんにちの農業を取り巻く環境は大変厳しい状況です。

- ・農家の皆さんと農家との意見交換会
- ・農産物の販売戦略
- ・加工品の開発
- ・海外への輸出



など前向きな取り組みが出来ないものか。

これからの南九州市の農業を、いち早く前進させ、後継者に魅力ある農業にできないものでしょうか。

農家が潤えば、衣食住に携わる方々にも反映されるのではないかと。若い農業後継者が次の世代に繋げられるような農業経営環境づくりが、できないものでしょうか。

議員の皆さま、これからの南九州市の農業を農家とともに魅力ある「農業国・南九州市」を築いていきましょう。



川辺町 永田

南谷 勉

まちづくりに人権を

南九州市のことではないですが、自治体の議員や国会議員の言動がメディアで報道されました。

その中で私が一番気になったのが議会での「セクハラやじ」です。

「セクハラ」と簡略化すると、「ちよつとしたからかい」「悪気のないいたずら」程度のニュアンスに受け止められがちですが、「セクシャルハラスメント」とは要するに性差別を背景にした人権侵害です。

社会での人権に関する認識も変化していますが、

「セクハラ」については、

ともすれば「悪気はないのだから」「そんなにむきにならなくても」などと軽視されがちです。

学校での「いじめ」も、かつては「セクハラ」同様、「ちよつとしたからかい」「悪気のないいたずら」程度の認識でした。が、「いじめによる自死」が相次いだことで、命にかかわる重大な人権侵害という認識に変わってきました。

「いじめ」が子ども社会での人権侵害であるなら、「セクハラ」や「パワーハラスメント」などは大人社会での人権侵害です。子どもたちに「いじめ」の不当さを説くときに、大人社会の「いじめ」を放置しては、説得力はありません。

まちづくり全体に人権尊重を中心に置いた自治体や議会の取り組みが大切ではないでしょうか。

傍聴席から

2回目の議会傍聴でした。

一般質問の通告書を見て、大事なことであるにも関わらず、我々では思いもつかないような事柄まで質問事項として挙げられており、議員の皆さんの視点・着眼点に感心させられ、「知らないところで色々な問題があるものだなあ」と感じた。

また、市役所職員の答弁も「こんな事までよく知っているもんだ」という感じです。見応えは十分にありますが、市政の勉強にもなります。

次は、あなたもぜひ議会傍聴してみてもどうでしょうか。

知覧町塩屋 菊永隆幸



編集後記



南薩の夜を彩る「知覧ねぶた祭り」も今年で19回目。祭り盛り上げ隊として最初から踊りに参加していたが、今は年を重ね、見物人増やし隊として参加。

当日、普段から交流のある留学生を招待すると早速4人の鹿大留学生が来て、まるで子どものようなはしゃぎ方。4人全員が黒人留学生だったのでも、「明るいうちはすぐ見つかるけど、暗くなったら見えなくなっちゃったよ。」のジョークに大笑いし、「楽しかった。有難うございました。」と何度も頭を下げて帰りました。「知覧ねぶた祭り」に有難う。

(内園)

▼広報編集委員会

委員長 西 次雄
副委員長 吉永 賢三
委員 塗木 弘幸
松久保正毅
蔵元 慎一
内園知恵子